

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ホッコクアカエビ

学名 *Pandalus eous*

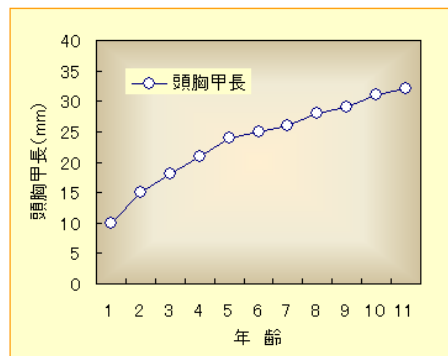
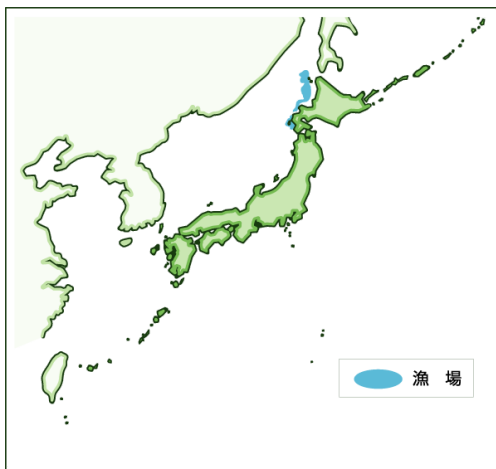
系群名 北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 11歳
成熟開始年齢： 雌6歳、雄不明
産卵期・産卵場： 産卵と孵出は隔年、3月中旬～5月中旬の産卵期には深海域（300～400m）、1～3月の孵出期には浅海域（200～300m）
索餌期・索餌場： 北海道西部日本海の陸棚縁辺部～斜面上部（200～600m）
食性： 甲殻類、貝類、ゴカイ類、泥中の有機物など
捕食者： タラ類、カレイ類、メバル類、タコ類など

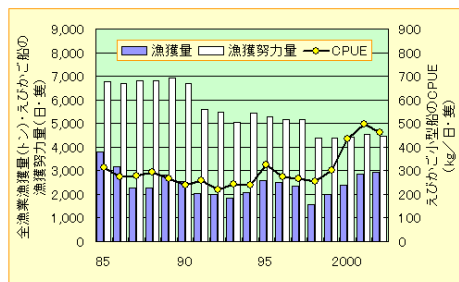


漁業の特徴

北海道のえび漁業は、1950年代のトヤマエビ漁に始まる。トヤマエビの枯渇から、1970年代には北海道のエビ類漁獲量の約9割をホッコクアカエビが占めるようになった。北海道西部日本海では、ホッコクアカエビは主にえびかご（知事許可）によって漁獲されている。当該海域の中でも、留萌・後志支庁の水揚げ量が、漁獲量の大半を占める。

漁獲の動向

漁獲量は、1986～1993年に減少傾向を示したが、その後増加し、1995年には2,575トンとなった。1996～1998年に再び減少したが、1999年以降は現在まで増加を続けている。2002年の漁獲量は2,934トンであった。

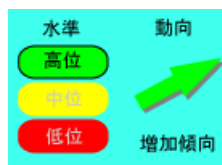


資源評価法

えびかご船（大型+小型）の漁獲努力量は、1986年以降減少傾向にある。えびかご漁業の漁獲量は、この漁獲努力量の減少の影響を受けていると考えられるため、えびかご小型船のCPUE（1日1隻当たりの漁獲量）の経年変化から資源状態を判断した。

資源状態

1985年以降、200～300 kg／日・隻で比較的安定して推移していたえびかご小型船のCPUEは、2000年には436 kg／日・隻に急増した。2001年にさらに497 kg／日・隻に増加したが、2002年には若干減少し、過去18年間（1985～2002年）で2番目に多い462 kg／日・隻となった。また、過去5年間（1998～2002年）のえびかご小型船のCPUEにあてはめた回帰直線の傾きは、0よりも有意に高い値であった。したがって、資源水準および動向は、それぞれ高位で増加と判断した。



管理方策

資源状態は高位で増加と判断されたが、えびかご小型船のCPUEは、2002年に若干減少したため、現在の漁獲圧を維持することを目標とした。えびかご小型船のCPUEの過去3年間（2000～2002年）における年間増加率は3%であったことから、ABClimitは、2002年の漁獲量に1.03の二乗値である1.06を乗じて算定した。また、ABClimitに安全率である0.8を乗じて算定した。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	31百トン	1.06Ccurrent	-	-
A B C target	25百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- えびかご小型船のCPUEの経年変化から資源状態を判断
- えびかご小型船のCPUEは、近年大幅に増加したため、資源水準は高位、動向は増加

資源管理方策のまとめ

- 現在の漁獲圧を維持
- ABClimitは2002年の漁獲量×1.06、ABClimitはABClimit×0.8

資源評価は毎年更新されます。